

## 出エジプト記 20:12-21 十戒 第三部

今日は出エジプト記 20:12-21 を中心に見ながら、十戒についての学びを終えたいと思います。十戒を理解するための基礎となる 2 つの重要な点があります。一つ目はモーセの契約すなわち旧約聖書の律法全体はイエス・キリストによって成就されたということです。マタイの福音書 5:17 節には「17 わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思ってはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。」とあります。では、律法、特にこれらの戒めと私たちの間にはどのような関係があるのでしょうか。それは、イエスご自身が律法を成就されたこと、またそれが何らかの形で、今も私たちのためであることを示された、という 2 つ目の点に見出すことができます。マタイの福音書 22:36-40 には次のようにあります。「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」 37 イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』 38 これが、重要な第一の戒めです。 39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。 40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」これはすべての律法を集約したのですが、特に十戒をまとめたものです。先週見た最初の 4 つの戒めは、どのようにして、心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして神を愛するのかを教えてください。

今日は残りの 6 つの戒めが教える、隣人を自分自身のように愛するとはどのようなことかを見ていきます。隣人を愛することは、私たちにとって最も身近な関係からはじまります。今日の聖書箇所である出エジプト記 20 章 12 節を見てください。「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。」明らかに、これは、私たちが自分の両親とどのように関わるかについてです。ここで使われている言葉が、エペソ人への手紙 6:1 で子どもたちに対して使われている「従う」ではなく、「敬う」であることに気づかれたでしょうか。エペソ人への手紙 6:1 は「子どもたちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです。 2 「あなたの父と母を敬え。」これは約束を伴う第一の戒めです。 3 「そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く」という約束です。」と述べています。親と同居している被扶養者の子どもと成人した子どもでは、期待されることに若干違いがあります。ある年齢においては、親を敬うということは、明らかに親に従うことであり、文句を言ったり異議を唱えたりせず、言われたことをやることです。ですが、成人した子どもにとっては、第一に従うべきは神であり、十戒の最初の 4 つの戒めを守ることです。その決断に両親が同意しないこともありえます。特に両親がクリスチャンでない場合はそうでしょう。それでも、私たちは両親を敬うようにと命じられています。皆さんの中には、両親が自分に優しくしてくれなかった、もしかしたら両親に虐待されていたという方もいるかもしれません。そのような状況で、どうすれば親を敬うことができるのでしょうか。たとえ親の側が求めてすらいなかったとしても、あなたの心は彼らを許す意思があります。大人になっても親に従順に従う義務はありませんが、人生における彼らの役割を尊重していることを示すことで、親に敬意を払うことが期待されています。悪い親に対しては許すということになるかと思いますが、ほとんどの親に対しては、自分を生み育ててくれたという事実を尊重し接することです。それは単純明快なことであるべきですが、これらどのような命令にも言えることですが、人は命令を破り罪を犯すことを正当化する道を見つけ、それでも神に従っていると思い込むことができます。イエスはマルコの福音書 7:11-13 でこのことについてこう述べています。「それなのに、あなたがたは、『もし人が、父または母に向かって、私からあなたに差し上げるはずの物は、コルバン（すなわち、ささげ物）です、と言うなら——』と言って、12 その人が、父または母のために、何もしないようにさせています。 13 このようにしてあなたがたは、自分たちに伝えられた言い伝えによって、神のことばを無にしています。そして、これと同じようなことを、たくさん行っているのです。』」パリサイ派の人々は、この戒めやその他の戒めの抜け道を作り出しました。これは神への捧げものと言えば、両親に彼らを助ける金はないと言って貧しい中に置き去りにできたのです。戒めに背くために神を利用することは罪深く悪魔のようなことです。にも関わらず、私たちはこの戒めだけではなく、全ての戒めに対して自分たちの不従順を

正当化する道をどれだけ頻繁に見つけ出していることでしょうか。命令を無視するもう一つの方法は、その結末を深く考えないことです。それゆえに、先週もお話ししましたが、ウェストミンスター小教理問答やキーチ・バプテスト教理問答は望ましいのです。それらが指摘しているのは、第五の戒めが私たちの生活におけるあらゆる権威とどのように関わるべきかの基盤であるということです。私たちの生活におけるそれぞれの権威に関して、それらの役割を担う人々に対して、私たちは敬意を示し、相応に従います。それは、社会において、政府に対して、あるいは教会においてもです。

では、更に直接的な第六の戒めに進みましょう。13 節は「殺してはならない。」と言っています。ここで用いられている言葉が重要です。単に殺すことではなく殺害することを意味する言葉が用いられています。旧約聖書全体を通して、神はその主権と栄光のために、時に戦うことを命じられました。創世記 9:6 は「人の血を流す者は、人によって血を流される。神は人を神のかたちとして 造ったからである。」と言っています。つまり、人は神の似姿であるゆえに、死刑は公正に執行される場合許されます。ルカの福音書 7 章に出てくるローマの百人隊長のような兵士でさえ、ローマの征服と占領において果たしていた役割について、イエスから非難されることはありませんでした。ですから、戦争や死刑において殺すことがあり得る一方で、明らかに禁じられているのは、意図的かつ悪意をもって命を奪うことです。もちろん、どちらの状況下においても殺すことが認められる場合についてクリスチャンが一致する必要はありませんが、白黒つけかねる問題であるということにおいては同意すべきだと思います。この点において創世記 9:6 で、殺害者に対する死刑が許されるのは、人が神のかたちとして造られたからだと言われているのは助けになります。そのかたちは私たちの存在が始まる時に始まりますが、それは生まれた時ではなく、受胎の時です。エレミヤ書 1:5 はこのことを神の「わたしは、あなたを胎内に形造る前から あなたを知り」という言葉の中で示しています。ですから、神の言葉にもとづいて、受胎の時に命が始まると理解するなら、中絶は計画的な人間の命の殺害ということになります。ですがイエスは、マタイの福音書 5:21-22 で、この戒めに対する私たちの解釈をさらに広げています。

「昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。」誰かに対して怒りや軽蔑の念を抱くことは、神の目には、実際にその怒りに駆られて相手を殺害したも同然です。私たちの中で、他人に対して罪深く、怒りを抱いたことがないと言える者が果たしているのでしょうか。

ですが、14 節にある第七の戒めに進む必要があります。「姦淫してはならない。」直接的に求められていることは明確です。夫または妻との結婚の契約を破ってはならないということです。新約聖書でも同じく明確です。ヘブル人への手紙 13:4 には「結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。」とあります。ですが、この戒め一つは守ったことへの自負や達成感に浸る前に、マタイの福音書 5:27-28 にあるイエスの言葉に目を向ける必要があります。「『姦淫してはならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。28 しかし、わたしはあなたがたに言います。情欲を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を犯したのです。」妻以外の女性を情欲をもって見たことがないと言える男性は一人もいません。バーナ研究所が 2024 年に行った調査では、アメリカ国内に調査対象が限られているものの、驚くべきことに、信仰生活を送っているクリスチャンの 54% がポルノを利用していると認めています。その内訳はクリスチャン男性の 75%、クリスチャン女性の 40% でした。これは、ポルノと分類されるものに限った数字ですが、同じ分類にはならないかも知れない漫画はどうでしょうか。あるいは、罪深い関係について生々しい描写が含まれる恋愛小説はどうでしょうか。私たちは言葉であれ画像であれ、不道德なイメージにさらされています。たとえ始まったときは純真な関係であっても、やがて肉体的な関係にまで発展しなかったとしても、配偶者だけに捧げるべき感情の親密さを育んでしまいます。

それでも私たちは、配偶者に肉体的な不貞を働いたことはない限り、神の前に問題はないと思っています。私たちの罪と清さを神の目を通して見ることができるよう、神が助けてくださいますように。

次に、15 節にある「盗んではならない。」という第八の戒めに進みましょう。この戒めの範囲を理解するためには、他人が盗み得るものとは何かを考えてみる必要があります。明らかに他人が所有するものです。ですが、雇用主に対して契約上負っている時間はどうでしょうか。第八の戒めは、生活の質を向上し富を得る方法がいかなるものであっても、ウェストミンスター教理問答が示しているように、それは合法的に成される必要があることを意味します。ですが、他人から盗まないということは、他者が合法的に富を得ることを妨げようと不正を行ったり愛のない行動をしないことも意味します。他の人がその資格を備えているにも関わらず、スキルアップしたり昇給を得ることを自分の職権を悪用して妨げることは、隣人から盗むことに等しい行為です。私たちは本当に隣人を愛しているのでしょうか、それとも口先でそう言っているだけに過ぎないのでしょうか。同様に、第九の戒めは 16 節で、「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」と言っています。イザヤ書 65:16 は神を「まことの神」と呼び、「この地で祝福される者はまことの神によって祝福され、この地で誓う者は まことの神によって誓う。かつての苦難は忘れられ、わたしの目から隠されるからだ。」と言っています。日本語を含む一部の訳では「真実の神」ではなく「まことの神」と訳されていますが、文脈からは神のご性質が完全に真実であるということが強調されています。神のご性質が真実であるという文脈において、私たちは神の似姿として、語るすべての言葉、そして特に他者との関りにおいて、その同じ真実を反映する者でなくてはなりません。それは明らかに、法廷で決して嘘をついてはならないという法的な感覚を反映しています。ですが、それは更に他者の名誉と評判を守ろうとすることでもあります。つまり、他者に関する噂話は罪深い行為です。事実、真実を危うくすること、他者の名誉を傷つけることは全て罪深い行為です。真実はクリスチャンの生活において非常に重要であるべきで、ヨハネの福音書 4:24 でもイエスは私たちの礼拝について「御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」と言っておられます。また、コロサイ人への手紙 3 章では、真理の欠如は、キリストの内にあって私たちが捨て去るべき古い罪深い性質の一部であると言っています。**コロサイ人への手紙 3:9「互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて」**皆さんの人生はあらゆる場面において常に真実と誠実さを現わしているのでしょうか。職場で、同僚に対して、上司に対して、従業員に対して、配偶者や子どもに対してはどうでしょう。道路での取り締まりで警察官に止められた時はどうでしょう。真実と誠実さがクリスチャン生活と神の民を定義づけるものであるべきです。

最後に第十の戒めです。17 節は「あなたの隣人の家を欲してはならない。あなたの隣人の妻、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを欲してはならない。」と言っています。この最後の戒めは、私たちの心の状態についての戒めです。もし他人が持っているものを欲しがったり、羨んだり、嫉妬したりしないのであれば、神が自分に与えてくださるものに完全に満足していることを意味します。そのように完全に満足していれば、身近な人が新車を手に入れたり、自分には手が出ない靴や洋服を身に着けていたり、あるいは自分が行けないような休暇に出かけたりしても、羨望のまなざしを向けることはありません。神はまた、隣人の妻を欲してはならないとすることで、この戒めを姦淫を禁じる第七の戒めと関連付けています。淫らな欲望はこの戒めの範疇であり、第七の戒めにも反するものです。この戒めが適用される様々な状況が考えられます。新約聖書のヘブル人への手紙 13:5 で、神は私たちが満足することを促しておられます。**ヘブル人への手紙 13:5「金銭を愛する生活をせず、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない」と言われたからです。」**ヘブル人への手紙の背景にあるのは、イエス・キリストがもたらす違いにあります。私たちがキリストの内にあるなら、聖霊が私たちの内におられることを通して、キリストが絶えず共にいてくださるということであり、必要なものはすべて与えられているということを意味します。必要なもののほとんどが与えられている、一部が与えられていると言っているのではありません。キリストと共

にあるなら、全て必要なものは与えられているのです。それなのになぜ、私たちはそれ以上のものを求めるのでしょうか。

神がこれらの戒めを与えられた後、人々が見聞きしたことにどのように反応したかを聖書は語っています。18-21 節にはこのようにあります。「18 民はみな、雷鳴、稲妻、角笛の音、煙る山を目の前にしていた。民は見て身震いし、遠く離れて立っていた。19 彼らはモーセに言った。「あなたが私たちに語ってください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお語りになりませんように。さもないと、私たちは死んでしまいます。」20 それでモーセは民に言った。「恐れることはありません。神が来られたのは、あなたがたを試みるためです。これは、あなたがたが罪に陥らないよう、神への恐れがあなたがたに生じるためです。」21 民は遠く離れて立ち、モーセは神がおられる黒雲に近づいて行った。」聖なる神が、その聖さゆえに民に求める従順の行いを示されると、その御前に民は恐れしました。ですが、彼らの恐れは恐怖と怯えであったのに注目してください。モーセはそのような恐れは民が抱くべきものではないと言います。神のご臨在が目前にあるのは、他の形で神を恐れるためです。ジョン・パイパーはこの恐れについて「身動きができないほどの恐怖ではなく、（海の引き潮から父親に抱き上げられた子どもが感じるような）震える思いだ」と表現しています。それは怖さにも震えながらも微笑みを浮かべることができるものです。つまり、神への恐れとは、神が聖さに対して求めるものが何であるかを知ることからくる、感謝と喜びに満ちた心からの礼拝です。ですが、これらの戒めを前に自らの罪を認識することは、解決策なしには恐れへとつながるでしょう。そこで、その解決策を示してくれているヘブル人への手紙の筆者の視点からこの点について最後に見てみましょう。ヘブル人への手紙 12:18-24 は次のように言っています。「あなたがたが近づいているのは、手でさわれるもの、燃える火、黒雲、暗闇、嵐、19 ラッパの響き、ことばのとどろきではありません。そのことばのとどろきを聞いた者たちは、それ以上一言も自分たちに語らないでくださいと懇願しました。20 彼らは、「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」という命令に耐えることができませんでした。21 また、その光景があまりに恐ろしかったので、モーセは「私は怖くて震える」と言いました。22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。」私たちの人間的な恐れや恐怖は、どうしたら神への聖い恐れと礼拝へと変わるのでしょうか。その答えはイエスと、私たちのために流されたイエスの血にあります。私たちがイエスに信頼し、罪を悔い改めるとき、新しい契約に与る、あたかも自分がこれらの戒めを完全に守ったかのように、神の目に真に義と認められる者たちの仲間となるのです。それは、私たちがイエス・キリストの義を与えられ、この古い契約の全てが律法を完全に守られたキリストによって成就されたからです。神への畏れへと導く、そのようなキリストにある信仰を皆さんは持っておられるのでしょうか。祈りましょう。

## Exodus 20:12-21 The Ten Commandments Part 3

Today we will finish up discussing the 10 Commandments by looking primarily at Exodus 20:12-21. The foundation of our understanding of the 10 Commandments is based on two key ideas. One is that the entire Mosaic Covenant or Old Testament law is fulfilled in Jesus Christ. [Matthew 5:17](#) “Do not think that I have come to abolish the Law or the Prophets; I have not come to abolish them but to fulfill them. So, then what is our relationship to this law and particularly these commandments? It is found in the second foundational idea that Jesus himself summarized the law and therefore shows us that it is still for us today in some way. In [Matthew 22:36-40](#), we read, 36 “Teacher, which is the great commandment in the Law?” 37 And he said to him, “You shall love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your mind. 38 This is the great and first commandment. 39 And a second is like it: You shall love your neighbor as yourself. 40 On these two commandments depend all the Law and the Prophets.” This is a summary of all the law, but specifically the 10 commandments. The first 4 commandments which we looked at last week are telling us how to love [God with all your heart and with all your soul and with all your mind...](#)

Today we will look at the last 6 commandments which define what it means to [love your neighbor as yourself](#). Loving our neighbor begins with the relationships closest to us. Look at verse 12 of Exodus 20 in our passage today. <sup>12</sup> “[Honor your father and your mother, that your days may be long in the land that the LORD your God is giving you.](#) Obviously, at its core, this applies to how we treat our parents. Notice that a different word is used here – honor, rather than the word “obey” in Ephesians 6:1 speaking to children. [Ephesians 6:1](#) says, [6 Children, obey your parents in the Lord, for this is right.](#) <sup>2</sup> “Honor your father and mother” (this is the first commandment with a promise), <sup>3</sup> “that it may go well with you and that you may live long in the land.” So, there is a little difference between the expectation of a dependent child, likely living with their parents and an adult child. At one age, honoring is clearly to obey, to do what your parents tell you to with no arguing or complaining. But as an adult your primary obedience is to God and obeying the first 4 commandments. Sometimes your parents may not agree with those decisions especially if they are not Christians. And yet, we are commanded to honor them. For some of you, your parents were not good to you, and perhaps were even abusive. So, how do you honor in that situation? You have a willingness to forgive in your heart even if they never seek it. There is no obligation to parents for submissive obedience into adulthood, but there is an expectation that you honor in whatever way shows that you have respect for their role in your life. For bad parents, that is forgiveness, but for most of our parents, it is treating them in a way that honors the fact they gave us life and raised us. While this should be straightforward, like any of these commands, humans can find ways to justify breaking the command and sinning while convincing ourselves we are obeying God. Jesus addresses this in [Mark 7:11-13](#) [11 But you say, ‘If a man tells his father or his mother, “Whatever you would have gained from me is Corban”’ \(that is, given to God\) — 12 then you no longer permit him to do anything for his father or mother, 13 thus making void the word of God by your tradition that you have handed down. And many such things you do.”](#) The pharisees had created loopholes for getting around this command and others. By saying something was donated to God, you could tell your parents that I have no money to help you, and leave them in poverty. To use God to disobey a commandment is sinful and demonic, and yet how often do we find ways to justify disobedience not only to this command, but all the commands. The other way we ignore the commands is to not think

deeply about all their ramifications. To repeat what I said last week, this is what the Westminster Shorter and Keach's Baptist Catechism are good for. And what they point out is that the fifth commandment is the foundation for how we relate to all the authorities in our lives. To each authority in our lives we give the honor and appropriate obedience to those people in all those various roles. Those could be within society, government, or even the church.

But let's move on to the 6th Commandment, which is even more direct. Verse 13 says, <sup>13</sup> **"You shall not murder."** The word used here is important—it means murder, not simply kill. Throughout the Old Testament, in his sovereignty and for his glory, God at times commanded wars. [Genesis 9:6](#) says, **Whoever sheds the blood of man, by man shall his blood be shed, for God made man in his own image.** So, capital punishment, when carried out justly, is permitted because humans bear God's image. Even soldiers, like a Roman centurion in Luke 7, were not condemned by Jesus for their role in Roman conquering and occupation. So, while killing can occur in war or capital punishment, what is clearly forbidden is the intentional, malicious taking of life. Of course, Christians don't have to agree on the acceptable place of killing in either of those circumstances, but I do think we have to agree that it is not black and white. And [Genesis 9:6](#) is helpful here, because it says the reason that capital punishment for murderers is allowable is because humans are the bearers of God's image. That image begins when we begin, and we don't begin at birth, we begin our life at conception. [Jeremiah 1:5](#) shows us this when God says in part, **Before I formed you in the womb I knew you**... So, an abortion would be the premeditated murder of human life based on the understanding from God's Word of life beginning at conception. But Jesus expands our understanding of this command even further in [Matthew 5:21-22](#). <sup>21</sup> **"You have heard that it was said to those of old, 'You shall not murder; and whoever murders will be liable to judgment.'** <sup>22</sup> **But I say to you that everyone who is angry with his brother<sup>[a]</sup> will be liable to judgment; whoever insults<sup>[b]</sup> his brother will be liable to the council; and whoever says, 'You fool!' will be liable to the hell<sup>[c]</sup> of fire.** Harboring anger and contempt at someone is the same in God's eyes as if you had actually acted on that anger and murdered them. Can any of us ever say, we have not had ungodly anger inside of us towards another person?

But we need to move on to the 7th Commandment in verse **14. You shall not commit adultery.** The direct application is very clear, do not violate the marriage covenant that you have with your husband or wife with anyone else. The New Testament is clear as well. [Hebrews 13:4](#) says, **Let marriage be held in honor among all, and let the marriage bed be undefiled, for God will judge the sexually immoral and adulterous.** But before we begin to feel any sense of pride in ourselves or accomplishment at having kept this single commandment, we need to turn to Jesus's words in [Matthew 5:27-28](#). **27 "You have heard that it was said, 'You shall not commit adultery.' 28 But I say to you that everyone who looks at a woman with lustful intent has already committed adultery with her in his heart.** No man alive can honestly say he has never looked at a woman who is not his wife with lust. A 2024 study from Barna although American in its results is still eye opening when it showed that 54% of practicing Christians admitted to using pornography. That broke down to 75% of Christian men and 40% of Christian women. That is just what can be classified as pornography, but think about the manga that is consumed that may not be in that same classification. Or what about romance novels that create graphic mental pictures of relationships that are sinful. We are bombarded by illicit images whether in words or in pictures. Even relationships that begin innocently

enough, grow to have a level of emotional if not physical intimacy that should be reserved for our spouse. But we think we are okay with God because we have never physically cheated on our spouse. May God help us to see our sin and the purity through his eyes.

Then we come to the 8th commandment in verse 15, **You shall not steal**. In order to understand the extent of this command, we should think through just what can be stolen by another person. Obviously, things another owns... But what about time you owe your employer contractually? The 8<sup>th</sup> commandment means that however we find to better our state in life and gain wealth, it must be done lawfully as the Westminster catechism says. But when we don't steal from others, it also means that we don't do things towards others in a way that is unjust or unloving that prevents them from gaining lawful wealth as well. So to treat others in a way that would keep them from moving up in job skills or levels of pay when it is in our power to affect it and they are qualified would be stealing from our neighbor. Do we really love our neighbor or do we just say that we do?

Along those same lines the 9th commandment says in verse 16, <sup>16</sup>**"You shall not bear false witness against your neighbor.** Isaiah 65:16 calls God, the "God of truth." ...so that he who blesses himself in the land shall bless himself by the God of truth, and he who takes an oath in the land shall swear by the God of truth; because the former troubles are forgotten and are hidden from my eyes. Some versions including the Japanese say "true God" rather than God of truth, but the context emphasizes that God in his character is completely true. In the context of God's nature as being truth, we as image bearers of God must reflect that same truth in everything we say especially in our dealings with others. This obviously reflects a legal sense that we should never lie in a court setting. But it goes beyond that to promoting the good name and reputation of others. In other words, gossip against others is sinful. In fact, anything that puts the truth at risk or harm's another's good name is sinful. Truth should be such an overwhelming part of the Christian's life that Jesus says our worship to God must be in spirit and TRUTH...John 4:24. And Colossians 3 says that any lack of truth is part of our old sinful nature that we are to reject in Christ. Colossians 3:9 tells us, **9 Do not lie to one another, seeing that you have put off the old self with its practices.** Does every part of your life reflect truth and honesty all the time. At work? With co-workers? With your boss? With your employees? With your spouse? With your children? When you get stopped by the police officer in a traffic stop? Truthfulness and honesty should define the Christian life, and the people of God.

Finally, we come to the 10th commandment. Verse 17 tells us, <sup>17</sup>**"You shall not covet your neighbor's house; you shall not covet your neighbor's wife, or his male servant, or his female servant, or his ox, or his donkey, or anything that is your neighbor's."** This final commandment is about the state of our heart. If we are going to not covet or desire and be jealous of what others have then this requires us to be fully content with whatever God has provided us. This full contentment on our part will then prevent us from envying when we see someone in our circle get a new car... or afford some new shoes or clothes that we can't... or go on vacations we can't take. God also ties this back to the 7th Commandment against adultery by saying don't covet your neighbor's wife. Lustful desire falls into this category and is against the 7th Commandment. You could think of many different ways this would apply. In the New Testament in Hebrews 13:5 God gives us the motivation for our contentment. Hebrews

13; 5 says, “Keep your life free from love of money, and be content with what you have, for he has said, “I will never leave you nor forsake you.” The context in Hebrews is the difference that Jesus Christ makes, so when we are in Christ, his continual presence with us through the indwelling of the Holy Spirit means that we have everything we need. I didn’t say we have mostly what we need or some of what we need. We have EVERYTHING we need with Christ. So, why are we coveting anything else?

After God has spoken these commands, the Scripture tells us the response of the people to what they are seeing and hearing. Verses 18-21 say, <sup>18</sup>Now when all the people saw the thunder and the flashes of lightning and the sound of the trumpet and the mountain smoking, the people were afraid<sup>[a]</sup> and trembled, and they stood far off <sup>19</sup>and said to Moses, “You speak to us, and we will listen; but do not let God speak to us, lest we die.” <sup>20</sup>Moses said to the people, “Do not fear, for God has come to test you, that the fear of him may be before you, that you may not sin.” <sup>21</sup>The people stood far off, while Moses drew near to the thick darkness where God was. In the presence of a holy God defining for the people what actions of obedience were demanded by him in response to that holiness, the people were afraid. But notice their fear was terror and dread. Moses says, this fear is not what you should have. God’s presence is in front of you so that you will fear God in a different way. John Piper describes this fear as “not paralyzing dread, but trembling faith (like what a child feels when his father scoops him into his arms out of a frightening ocean undertow). It trembles and laughs at the same time. What fear of God is then is worship from a heart of gratitude and joy because they now know what God’s requirements for holiness are. But the knowledge of our sin in light of these commands can lead to human fear if there is no solution for it. So let’s close by seeing this event through the eyes of the writer of Hebrews who gives us the solution. Hebrews 12:18-24 says, <sup>18</sup>For you have not come to what may be touched, a blazing fire and darkness and gloom and a tempest <sup>19</sup>and the sound of a trumpet and a voice whose words made the hearers beg that no further messages be spoken to them.<sup>20</sup> For they could not endure the order that was given, “If even a beast touches the mountain, it shall be stoned.”<sup>21</sup> Indeed, so terrifying was the sight that Moses said, “I tremble with fear.” <sup>22</sup>But you have come to Mount Zion and to the city of the living God, the heavenly Jerusalem, and to innumerable angels in festal gathering, <sup>23</sup>and to the assembly<sup>[a]</sup> of the firstborn who are enrolled in heaven, and to God, the judge of all, and to the spirits of the righteous made perfect, <sup>24</sup>and to Jesus, the mediator of a new covenant, and to the sprinkled blood that speaks a better word than the blood of Abel. What causes our human fear and terror to turn into a holy fear and worship of God? The answer is Jesus, and his blood that was shed for us. When we trust in him, and repent of our sins, we become part of the New Covenant, and part of those who are truly righteous in God’s eyes as if we ourselves had perfectly kept all of these commandments. And it is because we are given Jesus Christ’s righteousness, and in him all of this old covenant has been fulfilled because he perfectly kept this law. Do you have that faith in Christ that leads to that fear of God? Let’s pray.